



2016
平成28年

3

きずな

K I Z U N A

特集
テーマ

いのち

いのちの尊さを感じて



- 2 のじぎく文芸賞 詩部門 優秀賞(一般の部)「風の電話」
山本光範さん
- 3 「『人間としての尊厳』の感覚を支える『いのち』の自覚・認識を」
梶田勲一さん(奈良学園大学 学長)
- 4 「自殺のサインと予防」
赤澤正人さん(兵庫県こころのケアセンター 主任研究員)
- 5 「いのちを支える～支え合いのリレー」
渥美公秀さん(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
- 6 「世界の視点から、尊い『いのち』を輝かせる『自己肯定感』について考える」
小川圭子さん(助産院 いのち輝かせ屋 代表)
- 7 「イランカラフテ～『こんにちは』からはじめよう～」
阿部範幸さん(公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 事務局次長)
- 8 情報ぶらざ



兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

兵庫県マスコット
はばタン

のじぎく文芸賞 詩部門
優秀賞（一般の部）

やまもと みつのり
山本 光範さん



「風の電話」

早春の海が見渡せる

丘は寒暖の大地でした

恐ろしい大悲劇があったとは

信じられない程の静寂でした

ボックスを開けて入って

優しく受話器を取りました

「あの人の海へつないで下さい」

思いを語り続けました

悲しくて苦しくて辛い日は

あそこへこれからも行きます

細波ややなみの音ばかりでしたが

つながったと深く信じます



のじぎく文芸賞
作品集講評より

東日本大震災で発生した大津波によって犠牲になった知人がいらっしまったのだろうか。被災地の海辺の高台に「風の電話」という電話ボックスがあるらしい。そこを訪れての作だと思われるが、実際に電話ボックスがなくても、海の見渡せる丘を渡る風に、おのずと作者の心という電話ボックスが開かれたのだと解釈してもいいだろう。なくなった人と繋がるためには、その人を引きさらっていった、その同じ自然に頼るしかないのだ。いや、自然というものの本当の力は死者とともにあること、死者と繋がっていることを私たちに教えてくれることのなかにあるのかもしれない。

震災が起こった同じ季節に訪れたのだろう。早春の海の静かさ、細波の音、多くの人々の命を奪った大津波が押し寄せた、その同じ海だとは信じられないような、おだやかな海。人の優しさや思いやり、人のいのちのかけがえのなさ、静かな十二行の詩のなかに深く感じるができる。

詩人・のじぎく文芸賞審査委員 時里二郎

何ものにも代え難い大切な「いのち」。地震や台風などの自然災害、人命軽視の事件や事故、自殺など、これらの「いのち」が脅かされるさまざまな問題に対し、私たちはどのように向き合っていけばよいのでしょうか。本号では、「いのち」の尊さを感じ、みんなで支え合える社会について考えてみましょう。

「人間としての尊厳」の感覚を支える「いのち」の自覚・認識を

日本の社会は、いまだ十分とは言えないまでも、豊かになり、自由になり、寛容になっています。しか

し、日本の社会を貫くべき価値志向的な基本軸を、そして一人ひとりが生きていく上での精神的な基本軸を見失ってしまっているのではないでしょうか。もともと基底的な「いのち」の感覚、人間一人ひとりについて持つべき「尊厳」の感覚についても、見過ごすことのできない欠落がみられるように思えてなりません。

「誰でもいい、人を殺してみたかった」という言葉を口に、本当にそれを実行してしまう通り魔的犯罪が各地で起こっています。その犯人は、年齢的には、高校生や大学生、そして高齢者までと多様です。医療現場でも、無茶な手術をしたり危ない薬を飲ませたりという行為を行った医者や看護師の事件も報じられています。残念ながら、「いのち」の感覚の欠如、「他の人間を尊重する気持ち」の欠如

が、現代日本社会の基底部分に広範に浸透しているように見えて仕方ありません。

「人間としての尊厳」ヒューマン・ディグニティ」という言葉が語られることがあります。「能力があるから」でなく、「役に立つ」からでなく、ましてや「美しいから」とか「感動を与えるから」でもなく、人間一人ひとり、そこに存在していること自体として、かけがえのない大切さがある、ということ語る言葉です。この「人間としての尊厳」ということを、一人ひとりがどのように深く実感し、自分自身の本音にしていけばいいのでしょうか。これは、自分自身に与えられている「いのち」に気付き、自分がその「いのち」を生きさせてもっていることに感謝し、他の人たちも自分と同様その人自身の「いのち」を生きている存在であることを理解していくことが、根本となるのではないのでしょうか。

こうした課題意識を持って、家庭でも、学校で

奈良学園大学 学長

梶田 叡一さん
かじた えいいち

も、地域社会でも、職場でも、自覚的にやっていくことが不可欠のように思えてなりません。「人間としての尊厳」についての感覚を、多様な形で「いのち」の自覚と理解を、一人ひとりに育て深めていきたいものです。

プロフィール

1941(昭和16)年、島根県生まれ。京都大学文学部哲学科(心理学専攻)修了。文学博士。国立教育研究所主任研究官、大阪大学教授、京都大学教授、京都ノートルダム女子大学学長、環都ノートルダム女子大学学長、兵庫教育大学学長、環太平洋大学学長を経て、現職。中央教育審議会元副会長、教育課程部会元部会長。現在は、日本人間教育学会代表、日本語検定委員会理事長も務める。



自殺のサインと予防

兵庫県こころのケアセンター 主任研究員

あかざわ まさと
赤澤 正人さん

はじめに

兵庫県内の自殺者数はここ数年減少傾向にあるものの、2014(平成26)年には1,147人の方が自殺で亡くなれています。これは同年の県内交通事故死亡者数の約7倍にあたります。自殺が1件起きると、強く影響を受ける人は最低でも6人はいると言われており、自殺を防ぐことは社会の大きな課題といえます。

「死にたい」と「生きたい」

自殺は、単に二つの原因から起こるのではなく、身体的・精神的な健康問題、経済・生活問題、家庭問題など、様々な要因が複雑に絡み合う中で発生すると考えられています。

自殺の危険の高い人は、深い孤独感や無価値感に苦しんでいます。そうした苦痛に圧倒されて、前向きな解決策を考えることが困難になり、絶望的な状況がずっと続くと思ひ込んでしまうようになります。そして耐え難い状況を終わらせるには死ぬしかない、あるいは諦めといった心理状態の末に自殺に至ると言われています。つまり、死を積極的に選んでいるのではなく、自殺しか選べないような心理的な状態にまで追い込まれているわけです。「死

にたい」の裏には、「生きたい」という思いがあることを忘れないでください。

自殺のサイン

「死にたい」と「生きたい」という気持ちの間で激しく揺れ動く中で、自殺の危険を示すサインのようなものが発せられることが多いとされています。その一つに、「事故傾性」と呼ばれる自分の安全や健康を守れない状態が現れる場合があります。例えば、不注意な交通事故や交通違反を起こす、お酒を飲んでトラブルを起こす、無理な投資やギャンブルにお金をつぎ込む、医師の助言や指示を聞かなくなる、突然の家出や失踪などといった自己破壊的な行動です。こうした行動は人生の長年に渡って確認されることもあります。

また自殺直前のサインの一例として、深い絶望感や孤独感に襲われる、注意や集中力の低下、業績や能率の悪化、身なりにかまわなくなる、食欲が極端に落ちる、不眠がちになる、大切にしていたものを整理する、はつきりと自殺について話す、自傷行為を行うなどがあります。

こうした自殺のサインを軽視することなく、共感的な態度や傾聴、ねぎらい、相談機関へのつなぎといった、相手にあたた

かく寄り添う姿勢が求められます。

おわりに

自殺予防に向けた取り組みは今後も継続されていくことでしょう。その中で支える側も孤立してはならないことを強調しておきます。自殺には様々な要因が存在するため、医療・行政・法律などの専門家を交えて複数で対応することが大切です。自殺予防というと個人にはハードルが高く感じられるかもしれませんが、まずは私たち一人ひとりがその課題に目を向けることが求められます。

プロフィール



2007(平成19)年、大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。精神保健福祉士、人間科学博士。2008(平成20)年、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所外来研究員、流動研究員、科研費研究員。自殺の実態把握と予防に関する調査研究に取り組み。2013(平成25)年6月から現職。東日本大震災の復興期における支援者へのサポートに関する調査研究に取り組む。

◆いのちの電話・自殺防止電話相談のご案内◆

あなたは決して一人ではありません。お悩みのある方は、下記相談窓口をご活用ください。



兵庫県のちと心のサポートダイヤル	078(382)3566	月～金 18:00～翌日 8:30 土・日・祝 24時間
神戸いのちの電話	078(371)4343	月～金 8:30～21:30 土 8:30～日 16:30(32時間) 祝 日 9:30～16:30 第4金 8:30～翌々日(日曜) 16:30(56時間)
はりまいのちの電話	079(222)4343	毎日 14:00～翌日 1:00
自殺予防いのちの電話	0120(738)556	毎月10日 8:00～翌日 8:00
働き盛り層SOSダイヤル こころの電話相談	078(367)1255	3月1日(火)～31日(木) 13:00～20:00
兵庫県電話夜間法律相談	078(341)9600	第2、第4日曜日 17:00～21:00

いのちを支える ～支え合いのリレー～

大阪大学大学院人間科学研究科 教授

あつみ ともひで
渥美 公秀さん

全国各地から多くのボランティアが駆けつけてくださり、被災した私たちを助けてくださった阪神淡路大震災から21年が過ぎました。今では、災害が発生すると、災害ボランティアが被災地に駆けつけて、災害で傷ついた人々のいのちやくらしを支えようと活動しています。

一見すると、そこには、ボランティアが支え、被災者が支えられるという一方通行の関係がありそうです。しかし、現場にいくと、被災者を支えるつもりでやってきたボランティアが、逆に、被災者に支えられるという場面に出くわすことが少なくありません。「いのち」や「くらし」を支えるという行為は、一方的に相手を支える行為だというよりも、互いに支え合うという行為なのだと考えた方がよさそうです。

支え合う行為には、二つのタイプがあります。まず、ある人に支えてもらった人が、今度は、支えてくれたその人を支えるというタイプです。直接的なお返しとも言える行為です。次に、間接的なお返しと言える支え合いのタイプがあります。ある人に支えてもらったけれども、その当人にお返しする機会がなかった時、どうすればいいでしょうか？

この解決策として、別の機会に、過去の自分と同じように困っている人がいたら、今度は自分がその人を支えるという方法があります。最初に支えてくれた人にお返しするのではないので、間接的なお返しとなります。言い換えれば、ある人を支えたら、今度は、その人が別の人を支える、いわば「支え合いのリレー」です。

実は、支え合いのリレーは、東日本大震災以来、目立つようになってきました。全国の方々から支えていただいた私たちが、2004(平成16)年中越地震、2007(平成19)年中越沖地震で傷ついた新潟の方々を支える活動を展開しました。東日本大震災が発生すると、今度は、新潟の方々が東北の方々を支えてくださいました。阪神・淡路大震災の被災地から、新潟、そして、東北へとリレーが行われたのです。

困難な状況にある人々を支える、支えられた人が今度は別の人を支えていく。こうして、支え合いのリレーが繋がり、各地に広



被災地をつなぐ支え合いのリレー

プロフィール

1961(昭和36)年、大阪府生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科教授。専門は、グループ・ダイナミックス。認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク理事長。神戸大学教員として西宮市で阪神・淡路大震災に遭い、ボランティア活動に参加。災害ボランティア活動をテーマに研究と実践を展開。主著「災害ボランティア―新しい社会へのグループ・ダイナミックス」(弘文堂)。



がっていく。リレーの展開は、支え合いに満ちた新しい社会への入り口を指し示しているのではないのでしょうか？



世界の視点から、尊い「いのち」を輝かせる 「自己肯定感」について考える

「親が子どもを虐待する」「子どもが親や祖父母を殺める」「若者が仲間を殺める」こんなニュースを聞くと、本当に胸がしめつけられるほど悲しくなります。

というのも私は、いのちの誕生のお手伝いをさせていた中で、「みんな愛されて生まれて生まれたてきた奇跡の存在だ」という事を実感しているからです。この世に生まれてきた尊く、大切ないのちを、それぞれに輝かせて生きて欲しいと願っています。

意識調査の結果による日本の若者の特徴

日本を含めた7カ国の若者を対象とした意識調査(平成26年子ども・若者白書)の結果によると、自己を肯定的に捉えている者の割合が、日本は45・8%と最も低く(アメリカ86%、イギリス83・1%、他にも「自分の将来に明るい希望を持っていない」「悲しい、ゆううつだ」と感じている者の割合が高い)「家族」といときの充実感や家庭生活の満足度が低い」という日本の若者の特徴が浮き彫りにされていました。自分を肯定し、大切にできてこそ、自分以外の人も大切にできると思うので、「自己肯定感」は健全な人格形成においてと

ても重要です。

アジアやアフリカの国々の子どもたち

私が見てきたアジアやアフリカの国々では、子どもたちの笑顔や天真爛漫さ、自己アピール力等から、子どもたちの「自己肯定感」の高さを感じます。電気やガス、水道がない生活の中、子どもにとつて水汲みや薪集め、下の子のお世話等、家族の手伝いは当たり前です。親から愛される以外にも「自分は誰かの役に立っている」という日常の小さな役立ち感も「自己肯定感」の根幹を担っていることでしょう。



セネガル(西アフリカ)の村にて

「自己肯定感」を育める日本へ

便利な日本では、子どもが役立ち感を感じる機会が減り、逆に迷惑をかけず、「こうあるべき」という親の枠に入る事が求められている様に感じます。子どもは本来、自由で好奇心旺盛で、その結果迷惑もかけながら成長していきます。社会や家族にその寛容性がないと、子どもは健全に成長でき

ません。

そう考えると、冒頭の事件は、個人の問題というよりも、もしかすると「自己肯定感」を育みきれない日本の社会や家族関係のあり方に、影響を受けているのかもしれない。親も子どもも自分を愛し、「自己肯定感」を育める、そんな日本にしていきたいですね。

プロフィール

助産院いのち輝かせ屋代表、国際助産師。和歌山県生まれ。日本福祉大学大学院修了。世界57か国を訪問。インドのマザーテレサの施設、青年海外協力隊、母子保健の専門家、国際緊急援助隊等として約10年間、国際協力活動に従事する。大阪市立大学大学院、大阪府立大学等4校の非常勤講師を兼務中。2014(平成26)年JICA理事長表彰受賞。外務大臣より感謝状授与(3回)。著書「育てにくい子」に不安を感じたときの子育て(PHP研究所)他。



助産院
いのち輝かせ屋代表

小川 圭子さん
おがわ けいこ

イランカラプテ

「ここにちは」からはじめよう

「アイヌ文化財団」とは

アイヌ文化財団は、1997(平成9)年に制定の「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」に規定された業務を行う全国で唯一の法人として指定を受け事業展開しています。

事業運営にあたっては、アイヌ文化の発展と国民理解の促進を図るとともに、アイヌ民族の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。

これまでアイヌ文化等に関する研究の推進やアイヌ語を含むアイヌ文化の振興やアイヌの伝統文化に関する知識の普及啓発のため、様々な事業を全国で展開しています。

きずなトピック

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
(略称 アイヌ文化財団) 事務局次長

あべのりゆき
阿部 範幸さん



「イランカラプテ」という言葉をきつかけに、アイヌの人たちの育んできた文化と心に触れていただきたいというキャンペーンです。

「民族共生の象徴となる空間」について
国の施策として、アイヌの歴史、文化等に関する国民各層の幅広い理解の促進を図るとともに、将来へ向けてアイヌ文化の継承をより確実なものとし、新たなアイヌ文化の創造

しかし、アイヌの人たちが北海道に古くから住んでいたことは一般的に知られているものの、アイヌの人たちの歴史や文化等に対する知識は漠然としたもので、必ずしも十分な理解を得ているとは言い難い状況にあります。

イランカラプテキャンペーン

そこで、2013(平成25)年度よりアイヌ語の挨拶である「イランカラプテ」を北海道のおもてなしの合言葉に位置付けようと、関係機関と連携し、キャンペーンを展開しています。

及び発展に繋げていくための中心的な拠点として2020(平成32)年、北海道白老町に公園を含んだ「民族共生の象徴となる空間」が、アイヌの歴史や文化を学び伝えるナショナルセンターとして設置されます。主な機能としてアイヌの歴史、文化等の展示や調査研究機能、文化伝承・人材育成機能、伝統工芸や伝統料理の体験ができる場を提供する体験交流機能等が考えられています。

これまで行ってきた文化振興や普及啓発のためのソフト事業と併せ、これから整備される象徴空間において情報発信等の事業を通してアイヌの歴史文化を学び伝えていきたいと考えています。

プロフィール



1964(昭和39)年、北海道平取町生まれのアイヌ民族。1997(平成9)年7月に北海道及び北海道内市町村からの出捐と職員

の派遣協力を得て設立されたアイヌ文化財団最初のプロパー職員となる。2015(平成27)年4月より事務局次長。

アイヌ文化財団
札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7
URL <http://frpac.or.jp> E-mail ainu@frpac.or.jp

映画紹介

繕い裁つ人(つくろひたつひと)

「着る人の顔の见えない服は作りたくない」と言う市江の店は、神戸の街を見下ろす坂の上にあります。職人気質で、初代の祖母が仕立てた服の仕立て直しやサイズ直し、祖母のデザインを流用した新作の一点もののしか作りません。着てくれる人たちとも、濃い人間模様があり、関係者しか参加できない夜のシーンは幻想的で見応えがあります。

そんな市江のもとに、神戸の百貨店に勤める藤井が現れ、ブランド化を勧めます。市江はかたくなに断り続けますが、藤井はあきらめません。車いすの藤井の妹とも知り合った市江は、やがて彼女のためのウエディングドレスを、初めて自らのデザインで仕立てることを決意します。「今を生きている人の服を作ることこそ、今を生きている職人の仕事」と気づいた市江は、新たな世界へと歩み出します。

神戸市を中心に兵庫県でオールロケされた作品です。



監督:三島有紀子
出演:中谷美紀、三浦貴大、黒木華
104分
3/12小野市民会館、3/23垂水レバンテホール、3/27三木市文化会館、3/29明石市民会館にて上映会があります。

●お問い合わせ
兵庫県映画センター 078(331)6100





のじぎく文芸賞作品集を ご活用ください



県民の皆さんの人権意識の高揚を図るため、兵庫県と協会が毎年公募する「のじぎく文芸賞」。このたび、平成27年度の最優秀賞4編、優秀賞7編を収録した作品集が完成しました。図書館や市役所等の公共施設、県立のじぎく会館などで閲覧することができます。また、当協会ホームページでもご覧いただけます。人権啓発や研修の場でぜひご活用いただければと思います。

問い合わせ先 (公財)兵庫県人権啓発協会 啓発・研究部 TEL078(242)5355 FAX 078(242)5360

古山桂子審査委員長の総評(一部抜粋)

…小説にしる随想にしる、また詩や創作童話にしる、そこに描かれた世界におのずと引き込まれていくのは、書き手が強い思いや願いを持っておられるからです。にわか勉強でも付け焼刃でもない、日ごろから抱いている思いがあるからこそ、よい文章になり読み手の心を動かすのだと思います。

テーマは人権ですが、それを理屈で書くだけでは人は感動しません。頭でなく心から出た深い真実であるからこそ、訴えることが伝わるのでしょう。…

イベントガイド

もとまち ハートミュージアム 2016 ～人つなぐ道、 辿りつづけて12年～	期間 4月1日(金)～5日(火) 入場料 無料 会場 神戸元町商店街(①こうべまちづくり会館 ②神戸風月堂元町本店) ※①地下鉄「みなと元町」駅から徒歩約1分、神戸高速「花隈」駅から徒歩約3分 ②JR・阪神「元町」駅から徒歩約5分 内容 障がい者アート作品展「ドギドギ展一人・ひと」、作業所製品ワゴン セール、ステキなフォトフレームづくり(作業所新商品ワークショップ) など(会場①)、コンサート「もとまちウキウキ」(会場②) ※各催しの開催日時は実行委員会事務局に問い合わせください。	問い合わせ もとまち ハートミュージアム2016 実行委員会事務局 TEL 078(252)8280
--	---	---

インターネットで「人権文化をすすめる県民運動」の模様を配信中!

人権文化をすすめる 動画 検索

人権に関する川柳を募集します!

いずれかのテーマに当てはまる川柳を募集します。
優秀作品は「きずな」に掲載し、オリジナルクリアファイルを
プレゼント。

募集テーマ 子ども、女性、外国人

応募方法 はがきか、FAX、メールで受け付け。
郵便番号、住所、名前(ペンネームの場合も併記)、年齢を明記のうえ、ご応募くだ
さい。4月8日(金)締め切り。(応募は各テーマにつきお1人1点とします。)

インターネット上を含む未発表・未投稿の自作の作品に限りします。

応募先 (公財)兵庫県人権啓発協会 啓発・研究部(下記参照)

ハーフ
half
タイム
time

編集を通じ、「いのち」をつなぐための様々な取り組みに触れることができ、あたたかい気持ちになりました。反面、事故や虐待、自殺など、救える「いのち」もあると強く感じました。そのために必要なのはつながりの力。一人ひとりが隣人の心の声に耳を澄ませ、関心を持つことが大切なのだと思います。

本年度もきずなをご愛読いただきまして、ありがとうございました。多様化する人権課題を読者のみなさまにより身近に感じていただき、ともに考えていけるような編集を心掛けていきます。来年度もよろしくお祈りします。(小池)

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
 TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp

兵庫県人権啓発協会

検索

2016(平成28)年3月発行